

Keyword ミラーボックス, 幻肢痛, リハビリテーション

## 01 本研究の適用分野・用途

- 幻肢痛の低減
- 四肢の麻痺に対するリハビリテーション
- リハビリテーション効果の定量化

## 02 アピールポイント

- PCレベルの安価なシステム
- 患者の体位が自由
- 下肢など欠損が大規模な患者にも適用可能
- 麻痺患者のリハビリテーションにも適用可能

### 研究概要

#### システムの原理

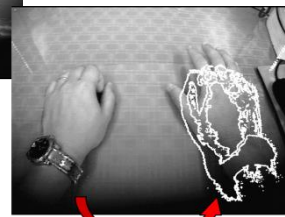
健常肢の画像とその鏡像を、時相差をつけて合成し、提示する。

#### 本技術の特徴

- (1) 患者の体位が自由であり、時相差を任意に変化させることができる。
- (2) 健常肢と重ねて表示することにより、麻痺患者のリハビリテーションにも適用可能。また、画像の一致度より効果の定量化が可能。



時間差をつけて表示



左手の輪郭をガイドとして表示

